

平成 28 年度香美市教育委員会
施策に関する点検・評価報告書

平成 30年 1月
香美市教育委員会

点検及び評価の概要

平成20年4月1日に施行された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正に於いて、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しなければならないこととされました。

この改正は、効果的な教育行政を推進し、住民の皆様への説明責任を果たしていくことを目的としたものであり、具体的には、教育委員会で、自ら設定した教育に関する基本的な方針や地域の課題等に応じて、教育行政がどのように執行されているのかを点検・評価することになります。

香美市教育委員会は、平成28年度の教育行政方針を基に、「心豊かな人づくり、人権尊重を核としたまちづくり」を推進しています。市民一人一人が、国際化、情報化、高齢化等の社会の変化に対応し得る能力を身につけ、心身ともに健康で調和のとれた人間形成を自ら成し遂げ、自己実現が図れるように、生涯学習の推進体制や環境を整備し、「学びをたのしむ人々が育つ風土づくり」に努めてきました。

このたび、平成28年度の取り組みに対し、自己点検・評価を行うとともに、評価内容の客観性を確保するため、学識経験を有する点検・評価委員から、今後の教育行政の推進についての意見・提言を受けました。これらを「平成28年度香美市教育委員会施策に関する点検・評価報告書」として公表いたします。

教育委員会の点検・評価制度の実施により、教育委員会自らがその成果や課題を確認することで、今後の施策改善に反映させるとともに、目指すべき方向についてより具体的なそして効果的な教育行政の推進を図ることとします。

点検及び評価の構成

平成20年4月1日に施行された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正により、市教育委員会では、効果的な教育行政を推進し、市民への説明責任を果たすことができるよう市教育委員会が行う事務の管理・執行状況について点検・評価を実施し、その結果をとりまとめました。

(評価の判断基準)

評 価	判 断 基 準
5	想定を大きく上回る成果が得られた。
4	想定以上に成果が得られた。
3	想定どおりの成果が得られた。
2	成果が得られたが、改善の必要がある。
1	成果が得られず、見直しの必要がある。

外部からいただいたご意見

点検・評価の客観性を確保するために、学識経験を有する外部の方を点検・評価委員として、ご意見、ご助言をいただきます。

氏 名	所 属
福石 賢一	高知工科大学 教職課程准教授

結果の公表

- (1)点検・評価の結果については、議会へ提出します。
- (2)市民には、ホームページにより公開します。

平成28年度 外部評価

地教行法改正に伴い平成20年度より開始された香美市における教育委員会の諸活動に対する評価報告は今回で9回目を迎えることとなった。昨年度に外部評価者が交代し、本評価の評価者にとっては今回が2度目の評価となる。昨年度は前年度までの評価方法を踏襲し、市教育委員会から頂戴した各種資料の検証、並びに学校及び社会教育施設の責任者への聞き取り調査により評価させて頂いたが、今回は学校及び社会教育施設の責任者への聞き取り調査に替えて教育委員会事務局内における各取組・事業の担当者に対する聞き取り調査を行い評価を行った。昨年度同様、資料の作成や聞き取り調査への対応には多くの時間と労力を割いていただいたこととご推察申し上げる。この場を借りて関係各位に謝意を申し上げたい。

さて、本外部評価では昨年度に引き続き、香美市の教育振興基本計画に基づいて策定された62の取組・事業を主たる対象として評価を行っている。市教育委員会は、市の教育振興基本計画に基づき、その基本理念である「郷土を愛し、未来を拓く人づくり」の下、「1. 主体的に学び、社会を生き抜く力をもった人材を育てます」、「2. 市民が協働し、ともに支え合い、高め合う地域社会を築きます」、「3. 夢を育み、新たな価値を創造する教育を展開します」の3つの視点から事業を計画、実施している。具体的には、視点1については学力向上、保幼小連携、いじめ・不登校対策、教員・管理職研修等に関する26事業、視点2については地域での体験活動、食育、子育て支援、地域連携等に関する21事業、視点3についてはICT機器整備、環境教育、高知工科大との連携、生涯学習等に関する15事業の計62の事業が配当されている。その62の事業名の下、具体的には、保育所・幼稚園から小学校あるいは小学校から中学校への進学時における学校間の接続をスムーズにするためのスタート・カリキュラムの開発や中学校区連携協議会の実施、教師の指導力向上を目指す各種研修会の実施、特別支援教育に関わる山田養護学校との連携、地域との双方向の連携を強化していくためのふるさとプログラムの実施、子ども会議の開催、学校支援地域本部や工科大の活用、各学校のコミュニティ・スクール化の推進、さらに子育て中の親を対象とした子育てひろばの実施や一般市民向けの市民大学講座の開講等の多種多様な取組・事業が積極的に実施されている。

これらの取組・事業については62の区分毎に、まず教育委員会が内部評価を行いそれぞれに1～5の評価点を付すこととなっている。今年度の評価においては5点が1事業（昨年度3事業。以下同様）、4点が20事業（35事業）、3点が35事業（19事業）、2点が6事業（5事業）、1点が0事業（0事業）で、62事業中56事業（57事業）、割合にして90%（92%）の取組・事業に3点以上の評価点が与えられており、平均点は3.3点（3.6点）となっている。各種資料並びに聞き取り調査をふまえて外部評価者が行った評価においても94%の取組・事業が3点以上であると判断され、平均点は3.3となった。以上から、教育委員会の事業は総体として一定の成果を上げているものと判断した。

しかしながら、このような積極的な取り組みにも関わらず、残念ながら本市も、我が国の学校教育に共通する課題を払拭するには至っていない。例えば、本市における中学校の長期欠席者数、小中学校におけるいじめ認知件数、同暴力行為発生件数はいずれも昨年度に比べて増加しており、その一方で小学校における「難しいことでも失敗を恐れずに挑戦する」児童や「自分には良いところがあると思う」児童の割合といった「生きる力」や「自尊感情」に関わる指標の数値で低下が見られた。学力に関しても、全国学力・学習状況調査における中学校の数学並びに思考力等が問われるB問題に関する小中学生の成績について市の年度当初の目標を達成できていない。このような課題の解決に向けては、考えられる施策の実施

を継続してだけでなく、各施策の有効性を判断しつつ、その実施方法や重点の置き方について不断の検討を行っていく必要があると思われる。

昨年度の外部評価において評価者は、PDCAサイクルを意識した評価、中長期の目標を意識した評価が必要である旨の意見を述べた。すなわち、目指すべき「到達目標」、「到達目標」を達成する手段としての「具体的な取組・事業」、その取組・事業を実施した結果もたらされた到達目標の達成度についての「評価」、その評価をふまえた改善策を盛り込んだ翌年度の「取組・事業計画」の間の関係性をしっかり意識した評価が課題の解決のために必要であるとの指摘をおこなった。この指摘に対して市教育委員会においてご対応いただき、今年度より評価表を「年度当初の現状（課題）」、「具体的な到達目標（有るべき姿・望ましい状況）」、「行動目標」、「行動実績」、「到達目標の達成状況」、「内部評価（点数）」、「内部評価根拠」、「外部評価（点数）」並びに「平成30年度の達成目標」から構成されるものに変更していただいた。これにより、昨年度に比べ市の施策の実施状況が誰にとってもより見やすいものとなり、また担当者にとっても施策の目標やPDCAサイクルがより意識しやすいものになったのではないかと考える。先に62の取組・事業に対する内部評価の平均点が今年の3.6から今年度は3.3へとやや下がったことに言及したが、これは実は取組・事業の成果が後退したことを意味するのではなく、むしろ中長期並びに当該年度の目標がより明確に意識されるようになり、それらの目標との関係から取組・事業の評価が行われた結果であり、評価者はこれを望ましい変化の兆しと捉えている。とはいえ、評価表が新形式になったこともその一因にあると思われるが、今年度の評価においては「年度当初の現状（課題）」等の各項目に記述すべき内容について統一がとれていない部分が見受けられるとともに、「到達目標」と手段としての「行動目標」の関係が不明確なもの、「到達目標」の達成状況の確認方法が不明確なもの、年度当初や年度末の状況がデータやエビデンスに基づいて把握されていないもの、一つの取組・事業として評価するには内容が多岐に渡り過ぎていて評価が困難なもの、「現状」からあまりにもかけ離れた「平成30年度達成目標」が設定されているもの等が散見された。

今後、平成30年度までの5年間の取組・事業の総括と、それをふまえての平成31年度からの新たな5年間の取組・事業計画の策定が予定されている。次期の取組・事業計画をよりいっそう有効なものとするためには、今期の取組・事業について、当初の状況・課題、各年度における取組・事業の実施状況、各年度末及び期末における当初の課題の解消状況を可能な限り客観的な指標・数値に基づきながら記録・把握しておく必要があると思われる。なおこの点について附言させていただくならば、各取組・事業において設定されている「平成30年度末達成目標」の中には必ずしも1つの取組・事業によって達成できるものではない、すなわち他の取組・事業や通常業務における工夫や努力と合わせてはじめて達成できるものが見受けられる。現在の取組・事業計画においては、基本的に目標と手段（取組・事業）が1対1に対応するものとして捉えられているように見える。次期の取組・事業計画策定の際には目的と手段が多対多に対応したモデルを用いて検討することも考えてよいのではないだろうか。

最後に、過去数年に渡って指摘されてきた年齢・経験年数を考慮した教職員配置の問題については、次期の取組・事業計画について議論する際に、是非その俎上に載せていただきたいと考えている。

<視点>

主体的に学び、社会を生き抜く力をもった人材を育てます

(1) きめ細やかな教育・保育の推進と体制整備

取組・事業名	内部評価	外部評価
香美市0歳から15歳までの「子どもの育ちの指標」を明らかにし、発達段階に応じた適切な教育の推進	3	3
保小連携、小小連携、小中連携教育	3	3
アプローチカリキュラム作成・実施	2	2
スタートカリキュラム実施(小・中学校)	3	3
インクルーシブ教育の推進 ①支援体制の確立	3	4
インクルーシブ教育の推進 ②高知県立山田養護学校との連携	3	4
インクルーシブ教育の推進 ③関係各機関と連携した研修と支援	3	3
インクルーシブ教育の推進 ④不登校対策	2	3
インクルーシブ教育の推進 ⑤いじめ対策・問題行動対策	2	3

(2) 活力ある保育所・学校づくりの推進

取組・事業名	内部評価	外部評価
学校組織として教育活動を推進	4	4
教職員に対する研修の充実	3	3
管理職研修の充実	3	3
中堅教員研修の充実	3	3
小中連携教育の推進	3	3
教育研究所による 学校支援の充実	4	3
保育職員の研修	3	3
香美市子ども・子育て支援事業計画の実施	2	2

(3) たくましく生きる人間力を培う教育の推進

取組・事業名	内部評価	外部評価
学力向上プロジェクト事業	3	3
中学校学力向上推進	3	3
香美市チャレンジ塾	3	3
道徳教育の推進	3	3
人権教育の推進	3	3
図書館教育の推進	4	3
体力の向上	3	3
健康な生活の推進	3	3
キャリア教育の推進	3	3
香美市版中学校職業体験学習のプログラム作成と実施		

<視点>

市民が協働し、ともに支え合い、高め合う地域社会を築きます

(1) 香美市のたからを活かしたふるさと教育の推進

取組・事業名	内部評価	外部評価
香美市社会科副読本活用推進 (支援員配置) (社会教育施設の活用)	4	4
香美市ふるさとプログラムの実施	4	4
・香美市の森の学習 (山の学習)	4	4
・香美市小中学校 子ども会議 子ども議会 (毎年実施) 食育の推進 香美市食育推進計画	4	4
香美市防災教育の推進	3	3

(2) 子育て支援と親支援の推進

取組・事業名	内部評価	外部評価
香美市教育の日 地域の人々を学校へ	4	3
子育て専門家支援 家庭支援推進事業	3	3
子育てひろば	4	4
子育てに関する 相談・援助	3	3
地域の子育て関連情報提供	3	3
子育てに関する講習会	4	4
子育てサークル支援	3	3
一時預かり	3	3
マタニティママのつどい	3	3
子育てサポート体験	2	3

(3) 市民協働で地域の教育力を高める取組の推進

取組・事業名	内部評価	外部評価
学校支援地域本部事業	4	4
放課後子ども教室推進事業	4	3
コミュニティースクール事業	4	4
放課後児童クラブの充実	4	4
学校評価の推進	3	3

<視点>

夢を育み、新たな価値を創造する教育を展開します

(1) 次世代を見通した教育の環境整備と実践

取組・事業名	内部評価	外部評価
ICT機器整備	4	4
情報モラル教育の推進	4	3
情報リテラシー教育の推進	3	2
環境教育 エネルギー教育の推進	4	4
学校図書館システム化の推進	5	5
外国語(英語)教育の推進	4	4

(2) 高知工科大学との連携

取組・事業名	内部評価	外部評価
高知工科大学について知る学習の推進 オープンキャンパス事業	3	3
高知工科大学留学生との交流 インターナショナルデイ開催	3	3
高知工科大学学生企画による小中学校学習支援活動	4	4
高知工科大学の施設や「知」を活用した連携活動の推進 教職員情報リテラシー研修の推進 例: 情報教育担当教員との連携	2	2

(3) 生涯を通じた豊かな学びと文化・芸術、スポーツ活動の充実

取組・事業名	内部評価	外部評価
芸術・文化活動の拠点となる市内社会教育施設の活用促進	3	3
民俗芸能や伝統行事を後世に残す取組の推進	3	3
生涯スポーツの推進	3	4
公民館活動の活性化	3	4
図書館活動の充実	3	3

